

スーパーサイエンス特別専攻 実績と各専攻の教育の取組み

〈特集〉

本学の学生サポート
研究室訪問

キャンパス情報／学科TOPICS／Office information



オナーズプログラム

スーパーサイエンス特別専攻 実績と各専攻の教育の取組み

全学生の5%が対象の特別なカリキュラムを設置

「スーパーサイエンス特別専攻」は、学力、勉学意欲の高い学生を対象（資格系3学科を除く10学科）としてスタートした「オナーズプログラム」です。本プログラム受講者は、卒業に必要な科目の30%程度が特別専攻用に設置された科目に置き換わる教育を受けています。また、以下の特別な教育プログラムが組み込まれています。

大学院進学(大学院進学を原則としている)

1期生(2014年度生)の大学院進学率は79%
(他大学大学院含む)

研究室(ゼミ)教育

1年次～3年次ゼミ、そして卒業研究、大学院での修士論文まで、一貫した研究室教育を実施

特別専攻用「専門科目」

特別専攻用の専門基礎導入科目をはじめとして独自の専用科目の中に置かれている

語学教育を重視。TOEIC「600点」取得が卒業要件

1期生(2014年度生)卒業時の平均点625.2点

1年次、3年次に「海外研修」が組み込まれている

各専攻で専門分野に触れる海外研修を準備

社会人基礎力のアップ

コミュニケーション力、プレゼンテーション力、文章力などをつける特別科目を設置

インターンシップ科目の受講

キャリア教育を意識し、1年次から始まるインターンシップ科目を設置

各専攻の教育の取組みと現状について

機械工学特別専攻

模擬研究を通じて考える力を育む

工学部機械工学科
林 直樹准教授

一般の学生と比べると早期から研究ができます。ただ、機械工学は様々な分野にまたがるので、いきなり研究室を選ばせることはありません。1年次に研究室を全てまわって講義を受け、機械工学にどのような研究分野があるのかを学びます。2年次の通年で特別専攻担当教員から与えられたテーマで模擬研究を行います。たとえば、私の研究室では前半でプログラミングの基礎を学び、後半で実際に熱に関する簡単なシミュレーションを行います。シミュレーションする課題は学生自身が考えます。このような模擬研究により、自分で課題を設定し、考える力を身につけることを狙いとしています。

更に、3年次より研究室に所属し、実際に研究を始めることができます。4年生や大学院生と一緒に研究をしますので、4年次では学会に参加して研究発表をしてもらいます。機械工学では大学院まで修了した卒業生が研究開発の現場で多く活躍しています。希望する仕事に就くためにも大学院に進学し、専門性をより高めることを希望しています。

次世代自動車開発特別専攻

学科全体を刺激するリーダーを育成

創造工学部自動車システム開発工学科
山門 誠教授

今春卒業した1期生は全員、大学院に進学しました。基本的に自動車好きが集まりますが、自動車への「感性」は年によって異なります。そのため、座学で説明したものが搭載された実車に触れて感性を高めてもらいます。また国内で最も大きな学会「自動車技術会」が主催する技術展示会の見学を実施して、自分が自動車の何が好きなのか「目指すべき専門性」を低学年のうちに見つけます。そして、これを研究室を選ぶ時のヒントにしてもらいます。2年次のゼミでは、手のひらサイズの自動車を作ります。これは3年次に人が乗れる自動車を作るための準備となります。

また、自動車メーカーとの共同研究にも参加します。最初は企業と院生の激しいディスカッションを見ているだけですが、それを経て、企業に求められて就職する先輩たちの姿から、大学院へ行く価値を見出します。自動車技術会での発表では、数百人もの人が聞きにくるほど本学の研究発表は注目されています。本専攻の学生には、学科全体の刺激になるリーダーを目指してもらいます。

ロボットクリエイター特別専攻

実践と理論の両面からロボットに特化した教育を実施

創造工学部ロボット・メカトロニクス学科
河原崎 徳之教授

本専攻では、1年次より実践と理論の両面からロボットに特化した教育を行っています。ロボット開発実践では、学生たちは特別専攻の担当教員から一対一で指導を受け、希望するタイプのロボットの設計・製作に取り組んでいます。また、養成ゼミでは、ロボット製作において、センサー工学やプログラミングなどの技術がどのように関係するか、総合的に理解できるようにロボットの専門書の輪読を行っています。

また、今年度の夏季休暇では、3年生を対象に初めての海外研修をカナダで実施します。期間は約1ヶ月で、1週目は、現地企業2社とカナダの大学2校を見学予定です。2週目以降は、現地のロボット教材メーカーにて、カナダ人技術者からロボット製作の講習を受け、最終週は、技能五輪に出場する同社のチームと一緒に、競技用フィールドでデモンストレーションを行います。現在、研修に向けて3年生たちは様々な準備を進めています。カナダでの研修が、英語力のアップ、そして、ロボット開発への意欲向上に大きなプラスとなることを期待しています。



スーパーサイエンス特別専攻募集人数・在籍者数

専攻名	学科名	募集人数	在籍者(1年～4年次)
電気電子特別専攻	電気電子情報工学科	8	3
	ホームエレクトロニクス開発学科		1
医生命科学特別専攻	応用化学科	15	6
	応用バイオ科学科		29
次世代自動車開発特別専攻	自動車システム開発工学科	8	7
ICTスペシャリスト特別専攻	情報工学科	15	20
	情報ネットワーク・コミュニケーション学科		3
	情報メディア学科		11
ロボットクリエイター特別専攻	ロボット・メカトロニクス学科	5	8
機械工学特別専攻	機械工学科	8	10
		59	98

2014年度からスタートしたスーパーサイエンス特別専攻は、2017年に完成年度を迎え、(機械工学特別専攻・ロボットクリエイター特別専攻を除く)初めての卒業生を輩出し、各専攻で様々な教育の成果が出ています。各専攻の教育の取組みを紹介します。

電気電子特別専攻

学外研究者との活発な交流が生む特許出願

工学部電気電子情報工学科
中津原 克己教授

旧名称・環境エネルギー特別専攻を本年度から現名称に変更しました。環境エネルギーの範囲に留まらず、通信から電子回路、発電や放電プラズマまで幅広い分野にまたがる電気電子情報工学科と、家電に特化した技術を学び、その応用先が明確なホームエレクトロニクス開発学科と共に、学生の能力を幅広い枠組みで伸ばすためです。

本専攻では1, 2年次から少人数ゼミを行い、3年次から研究室に所属して研究をスタートさせます。例えば、当研究室では、クリーンルームなど最先端の設備を利用して、光デバイスをつくるなど具体的な研究を行います。また、卒業研究に専念できる4年次になってからは、研究会などの学会活動に参加させ、大学院生の学会発表を聴講していずれ自分が行う成果発表を意識させるよう早期から配慮します。実際に1期生では、4年次の11月に最初の学会発表を行い、さらに研究を進展させて2月に再度学会発表を行いました。この他、研究室の活動を通じて、東工大など他学や、富士通研究所などの企業との交流があり、大学院生や学外の研究者とのディスカッションにも触れ、多くを吸収し、着実に力をつけてもらいました。その結果、1期生の研究では、特許出願という成果も出ています。

ICTスペシャリスト特別専攻

海外を舞台に情報技術を国際的視点で学ぶ

情報学部情報工学科
鷹野 孝典教授

1年生、2年生と早い段階で少人数制のセミナー(ICT特別専攻セミナー・演習)で学ぶことにより、ICTに関する専門知識を深く理解するとともに、グループワークや演習を通して発想力やコミュニケーション力を養います。今年度からタイ・チュラロンコーン大学の教員による英語で学ぶプレゼンテーション授業も開講し、発音指導に始まり、研究発表を視野に入れたプレゼンテーション、服装や目線、スライドの作り方などを実践的に学んでいます。毎年2～3月に開催するICT海外研修には、英語習得以外に情報技術を国際的視点で学ぶという目的があります。たとえば、研修先のインドネシアのパタムは、シンガポールとの立地が近いということもあり製造業が盛んな地域ですが、世界へ輸出する製品の製造管理や輸送管理の効率化のために情報技術を活用したいなど、現地ならではの産業とそのニーズをインターシップを通して学べます。また、パタム国際大学では、現地の学生との交流を積極的に行ってもらいます。たとえば、協動的サービスデザイン実習では、同学学生とチームを組んで英語でプレゼンテーションを行います。パタム国際大学での研修を通じて英語を学び、国際的感性を養う意義を実感し、次のステップとしてタイの名門・チュラロンコーン大学での研修に参加することができます。

医生命科学特別専攻

専門性のある実験を通して医療、医薬、医科学への応用を目指す

応用バイオ科学部応用バイオ科学科
小池 あゆみ教授

本専攻では、バイオ(生命現象)と化学(分子間の化学反応)の両側面から、医化学や医生命科学に関する教育を行っています。1年次に化学、バイオ、医療の基礎を学びながら、論文調査や研究発表に必要なスキルを学習し、2年次のゼミからは研究室に通い、化合物や生物試料、高度な各種分析装置を使って研究を行えるのが特徴です。研究テーマの選定や既存技術の調査、実験手法の選択、実験結果の解析技術など、研究を推進する上で必須なことを、教員だけでなく卒研生や大学院生の助言ももらいながら身につけていき、学会やサイエンスインカレ等での成果発表を目指します。初めは身近な興味から学生が選定したテーマに、専門性を持たせた実験で研究成果をまとめて発表することにより、もっと踏み込んだ研究をしたいと意識が変化し、発展が目覚ましい医療や医薬、医科学への応用をターゲットとした卒業研究や大学院進学につながっています。

本学の学生サポート

充実した学生生活を送るために、神奈川工科大学ではさまざまなサポートがあります。

学生課 学生生活を支え、明日へと導く

学生課では、学生の皆さんが充実した学生生活を送れるようさまざまな支援を行っています。

（主な支援業務項目）

◆学生生活(食・住・通学・健康・安全)支援

食: 学生食堂運営企画・管理

住: KAIT ERIM管理運営・指定寮、アパート紹介

通学: 急行バス・シャトルバス運行調整、車・自動二輪・自転車駐り場・駐輪場管理、安全運転研修会企画

健康: 学生相談室・健康管理室運営、定期健康診断、インフルエンザ予防接種実施

安全: 事件・事故防止、消費者被害防止・注意喚起、啓蒙活動

◆経済的支援(奨学金関連・アルバイト紹介・合宿旅行費用補助)

◆障害学生支援室との連携による障害学生支援

◆課外活動(クラブ・サークル・ボランティア)支援

◆事件・事故対応相談(よろず相談所運営)

◆その他

ブックセンター・マクドナルド営業調整、スポーツ施設管理、幾徳会館・KAITホール管理、その他

<学生相談室>

学生相談室では、臨床心理士の資格を持つカウンセラーが学生の皆さんのさまざまな悩みについて相談に応じています。保護者の皆さまからのご相談にも対応していますのでお気軽にご相談ください。秘密は守ります。また、必要に応じて、教職員や外部専門機関とも連携してサポートしています。フリースペースや仲間づくりのための集い「ゆるカフェ」のみの利用もできます。「ゆるカフェ」は毎週水曜日に開催しております。詳細はお問い合わせください。

◆相談内容

人間関係、身体や気持ち、学業、進路、性格など

◆開室時間・連絡先

月曜～金曜(9:00～17:00)※受付は16:50まで

TEL: 046-291-3038 Eメール: sodan@kait.jp (返信には数日かかる場合があります。)

◆カウンセラー

臨床心理士4名/メンタルヘルス・アドバイザー1名(精神保健指定医:水曜日入室)



<健康管理室>

キャンパス内でケガや病気になったときの応急処置や、健康相談を行っています。症状によっては外部医療機関を紹介しています。また、学校医による健康相談や、医療機関への受診相談なども対応しています。



◆健康管理室対応時間 月曜～土曜 9時～16時30分(授業期間)

TEL: 046-291-3037 Eメール: Kenkou@kait.jp

◆校医による健康相談 毎週水曜 13時30分～15時30分

看護師による健康相談も行っています。*電話・メールでの対応もできます。

「奨学金」について

「日本学生支援機構奨学金」

本学でも多くの学生が利用している奨学金です。春の定期採用は終了していますが、「追加募集」がある場合は、学生課前の奨学金掲示板でお知らせしています。なお、家計の急変等の事由により奨学金が必要になった場合に対応する制度が日本学生支援機構奨学金にあります。採用条件等は学生課に問い合わせてください。

○緊急採用(第一種奨学金) ○応急採用(第二種奨学金)

(適格認定について)

※在学中継続して奨学金を受けるためには、審査(適格認定)を受け認定されなくてはなりません。学業成績も厳しく審査されます。

(審査項目)

「人物について」生活全般を通じて態度・行動が奨学生にふさわしく、奨学金の貸与には返還義務が伴うことを自覚し、かつ、将来良識ある社会人として活躍できる見込があること。

「健康について」今後とも引き続き修学に耐えうるものと認められること。

「学業について」修業年限で確実に卒業又は修了できる見込があること。

「経済状況について」修学を継続するため、引き続き奨学金の貸与が必要であると認められること。



父母説明会・個別相談会開催について

平成30年度父母説明会・個別相談会は、以下の日程で開催します。なお、案内状の発送は8月中旬を予定しています。

〈開催日・開催場所〉平成30年9月22日(土)・神奈川工科大学

希望の進路へ着実に進んでいけるよう、学生の就職活動をサポートするのがキャリア就職課です。キャリア就職課職員、キャリアアドバイザー、学科就職事務室は、日々就職に関する質問や相談に対応しています。

2018年3月卒業生の本学の就職率は97.6%、また進路決定率(卒業生全員に対する就職決定および進学決定)は94.2%でした。

現在、2019年春卒業生の就職活動が本格化しており、報道されている通り、景気好調、求人増、中小企業の人手不足が相まって、学生の売り手市場により、内々定の状況は順調に推移しています。6月中旬以降は採用の第2クールとなります。学生の一人ひとりと向き合い、相談に対応しながら就職支援を行ってまいります。

本学主催の「合同企業・病院説明会」を開催

本学卒業生が活躍している企業を中心に、大手企業から中堅企業まで優良企業が参加する「合同企業説明会」を開催しています。2017年度の説明会には、延べ1,146社(個別企業説明会含む)の企業に参加いただきました。

『質』『量』ともに充実した説明会で、結果として、2017年度は、全内定者の41.3%の学生が合同企業説明会参加企業に就職が決定しました。今年度は6月までに合同企業説明会等、841社の企業に参加いただいております。

6月16日(土)、看護学部看護学科の学生を対象とした合同病院説明会を実施しました。臨地実習の受入れにご協力をいただいている病院等に参加いただき、4年生から1年生までの、111名の学生が参加しました。



インターンシップに参加しよう

●業界・仕事への理解が深まる

インターンシップでは、普段は外部の人には見せない仕事の現場をこの時期だけインターンシップ生に公開し、仕事を体験してもらいます。インターネットやメディアでは得られない、実際の業界・仕事に関する情報を知ることができます。

●自分のやりたい仕事を見極める

あなたが持っている仕事へのイメージは本当に正しいのでしょうか。仕事は実際にやってみないと、その面白さや難しさを理解するのは難しいものです。インターンシップでは、普段、社員の方々が取り組んでいる仕事を一緒に体験することにより、自分のやりたい仕事の“イメージ”と“実際”にギャップがないかを確認することができます。

●インターンシップでしか得られないものがある

現場をよく知る社会人の方から指導していただけるので、色々と質問をしたり相談ができて、あなたの就職活動に役立つ知識や経験を手に入れることができます。また、早い段階から社会人の方とコミュニケーションを取ることにより、マナーをはじめとした“社会人との接し方”を知ることができます。

インターンシップ推進室の紹介

今年4月、キャリア就職課に「インターンシップ推進室」を設置しました。インターンシップ受け入れ先の確保、マナー講座等のガイダンス、インターンシップ実施中の巡回等を行い、インターンシップ参加学生のサポートを行っています。

キャリアアドバイザーを活用しよう!

面接や応募書類の対策はキャリアアドバイザーが対応しています。また、3年生のインターンシップ対策にも対応しています。事前予約制で個別対応なのでしっかりと相談できます。

<相談内容>

- ・就職活動の進め方
- ・業界研究や企業研究の仕方
- ・応募書類対策
- ・採用試験(面接)対策
- ・インターンシップ用提出書類の対策

<予約方法>

大学ホームページ「就職・キャリア総合サイト KAIT Career」の【学内生ページ】キャリアアドバイザー面談予約フォームから、志望業界や志望企業、相談内容等を入力してください。



教務課 授業・履修～学びのサポート～

大学では、高校までとは大きく異なり、「主体的な学び」=自分で科目を選択し、時間割を組み立てて1週間のスケジュールをつくり、サークルやアルバイト、ボランティアや海外留学など自分の判断で計画することができます。授業形態はまさにさまざま。高校時代のように先生の話を聞く講義形式、自らが体験する実習・実験、さらには少人数で行うゼミナール(演習)という大学ならではの授業もあります。「学びたいことを思いきり学べる」これが大学で学ぶことの何よりの魅力ではないでしょうか。ただし、良いことづくめではありません。卒業に必要な単位数が決まられていて、3年次終了時点で卒業研究着手要件を充足していない場合は残念ながら留年が決まってしまう。そのため、各学年での修得目標単位数を1年次40単位、2年次40単位、3年次30～40単位(臨床工学科は、1年次43単位、2年次44単位、3年次39単位)に設定し指導しています。さらに、事前・事後学習の時間を確保するために「CAP制度」を導入し、履修単位数の上限を設けて単位の実質化も図っています。

また、保護者の方は「保護者ポータルサイト」から学生の掲示板(連絡内容)・授業時間割・出席情報・出席率・試験日程情報を把握することができ、学生・保護者・大学が三位一体で学修状況をリアルタイムで共有しています。



研究室 訪問

Laboratory visit

高度な専門技術者・研究者の養成をめざす神奈川工科大学大学院では、現在187名の大学院生(博士前期課程168名、博士後期課程19名*4月現在)が在籍し、各分野の研究に取り組んでいます。

実験や検証に粘り強く取り組み、その結果から導き出した成果を携えて国内外の学会などで発表していく。物怖じせずに進んでいく姿からは、次世代を担う“若き研究者”としての誇りと頼もしさを感じられます。

本学大学院生は、どのような研究に取り組み、それはどのように社会に役立っていくのでしょうか?各専攻から大学院生の「研究する姿」をお伝えします。



光通信ネットワーク用導波路形多チャンネル光スイッチに関する基礎研究

内堀 模太さん

大学院電気電子工学専攻博士前期課程2年(中津原研究室)

Q 研究内容について教えてください

インターネットにおいて、「ノード」と呼ばれる光通信ネットワークのつなぎ目で必要とされる技術の一つ「光スイッチ」デバイスの研究を行っています。中津原研究室で代々引き継がれている研究の一つで、4年次に先輩から引き継ぎました。大学院に進んでからは、クリーンルームに新たに買った装置で使用できるようになった「高屈折率材料」に、シリコンフォトニクス技術を応用して、微細加工を施したデバイスの製作に取り組んでいます。

初めてデバイスを設計した際には、シミュレーションと実際に製作したデバイスの特性とのギャップが大きく、実験の困難さを感じました。そこから製作条件を変え何度も作り直し、半年近くかけて初めて正常な動作が確認できたときは、心からうれしかったです。実験がうまくいかないときには、新たな条件で少しずつ試して、より良い結果が得られれば採用していく。その繰り返しで得られる「前よりも少しだけ改善できた」という小さな喜びが、研究を進めていく上でのモチベーションにつながっています。

Q この研究は社会でどのように役立つと良いと思いますか?

光通信ネットワークの高速通信・大容量化が進むと、ノード部分に用いられるデバイスには、低消費電力動作や小型化・大規模集積化が求められるようになります。私たちが取り組んでいるデバイスは、小型・高密度だけでなく、必要な電力は切り替えの瞬間のみといった特長があるため、既存の光デバイスに比べて、「エコ」な光デバイスとしての活躍が期待できます。

Q これからの目標をお聞かせください

新しい材料を用いて製作した光導波路と強誘電性液晶を組み合わせた、基礎的な光スイッチングデバイスの動作実証を行っています。実用化には検討しなければならないことが多いのですが、一つずつ課題をクリアしていき、得られた成果を2年次の間に学会で発表をしたいです。



中津原研究室はどんな研究室?

3・4年生がクリーンルーム設備や大型の装置に慣れるまで、大学院生は手取り足取り教えていきます。また、毎年の学園祭でOB会を開催し、様々な年代の先輩方と繋がりが続いています。

中津原 克己教授から内堀さんへのメッセージ 研究で得られた自信は「一生の糧」 就職後もチャレンジし続けください

とてもまじめで堅実で、後輩の面倒見も良い学生です。研究も着実に進めていて、昨年度は3回ほど学会で発表をしています。今後は、現在取り組んでいる研究の成果をまとめて、次の学会で世に出して欲しいと考えています。良い取り組みをしているので、必ず成果に結びつくでしょう。学部時代、成績は優秀でしたが、自分が持っている能力にやや自信が無いようにも感じられました。しかし、後輩の指導経験を積み重ね、4年次から苦勞を重ねて研究を続けてきたことがしっかりと自信に繋がってきていると思います。4年次から修士課程を通して得られた経験は困難なことにも主体的に取り組めるという証であり、「一生の糧」となるでしょう。就職後も様々なことにチャレンジして、能力を伸ばして行ってください。



ドラッグデリバリーへのナノダイヤモンドの有用性についての研究

森 みずきさん

大学院応用化学・バイオサイエンス専攻博士前期課程1年(高村研究室)



Q 研究内容について教えてください

3年次後期より、ダイヤモンドのナノ粒子である「ナノダイヤモンド」を用いたドラッグデリバリーの研究に取り組んでいます。ドラッグデリバリーとは、薬剤を必要とする体内の場所へ、必要な量を、必要な時間に伝達する方法で、薬の副作用を減らせる点に興味をもちました。現在は、ナノダイヤモンドとエチジウムブロマイド(生物分野でDNAの染色によく使用される)を混合して複合体を作成し、細胞生存率の変化と細胞内の取込みについての調査を行っています。

実験を進める中で、一般的に伝聞されていることは異なる結果を得たことがあります。調べてみると私が見た結果を裏付ける先行論文があり、これをきっかけに研究の方針が変わりました。本当に印象深くうれしい体験です。日々の研究では、一つの実験が一週間で終わっても、再現するための検証が必要となるため、サンプルの濃度や培養時間の条件を変更して、結果を確認していかなければなりません。実験にかかる時間に焦りを感じることもありますが、「ナノダイヤモンドを細胞の特定の場所まで送れるようにする」という次のステップをめざして、研究に取り組んでいます。

Q この研究は社会でどのように役立つと思いますか？

ドラッグデリバリーが実用化されると、薬剤耐性のあるがんの治療に役立つほか、薬をピンポイントで目的の細胞に届けられるため副作用の軽減につながります。また、この研究はバイオイメージングへの応用も考えられます。

*バイオイメージング:細胞・組織または個体レベルでタンパク質などの分布・局在を捉え、その動態を画像として解析する技術

Q これからの目標をお聞かせください

9月に本学で開催されるシンポジウムでポスター発表をしたいと考えています。発表は緊張もしますが、様々な方に私の研究を知ってもらえ、別の視点からのアドバイスなどいただける良い機会です。また、語学にも関心があり、英語のほかに中国語も学びたいです。将来は医療分野の仕事に就きたいと思っています。

高村研究室はどんな研究室？

研究室では、4年生が率先して雰囲気作りをしてくれています。環境化学、有機化学、分析化学など、幅広くテーマを扱っている研究室なので、異なる研究をしている学生とも討論でき、違う分野から学ぶことも多いです。

高村 岳樹教授から森さんへのメッセージ チャレンジ精神をもって課題に取り組み 充実した大学院生活を

研究室の中でもひとさわ「まじめ」なタイプで、日々実験に取り組んでいます。そんな森さんの今後に必要なのはチャレンジ精神でしょう。やりたいと思うことや自分がおもしろいと感じたことをつきつめて、積極的に情報を収集し、実験のプロセスを考え、どんどん提案をしてください。研究課題に対してどのような答えを出せるかは、実験で手を動かす本人次第だと思っています。まだ大学院での生活は始まったばかりですから、修士の2年間で研究者としての力をつけ、修了時には「この研究のここが面白いかった」と思えるように、頑張ってください。



手話における表情認識の研究(Webカメラを用いた唇検出方法の検討)

二階 雅弘さん

大学院情報工学専攻博士前期課程2年(西村研究室)



Q 研究内容について教えてください

西村研究室では、情報工学科の田中博研究室とカメラによる手話認識システムを共同で研究しており、その中で、私は手話における表情認識の研究をしています。手話にはイントネーションや感情を込める表現方法の一つとして唇の動作があります。その手話におけるイントネーションを読み取るための基礎的な研究として、唇の動きを読み取った画像から唇の位置や形状の検出をしています。

昨年度は、唇の形状特徴からスコアを算出し、唇領域と非唇領域を分類することに取り組まれました。唇の形状の特徴として考えられる項目を決めて分析を行ったところ、複数の項目で唇領域と非唇領域で異なる結果が見られました。仮説をもとに分析した結果から、次のステップにつながる確かな手応えが得られ、大変うれしかったのを覚えています。当初描いていた完成形にはまだ遠いのですが、現在取り組んでいることが、研究を進める上での基盤となるため、手法や評価において間違いないかを西村先生とも繰り返し話し合い、確認しながら進めています。

Q この研究は社会でどのように役立つと思いますか？

誰もがスマホと同じようにヘッドマウントディスプレイのような物を身につける時代が来たとき、手話認識システムが搭載されていれば、手話の方でもスムーズにコミュニケーションが図れます。また、手指の動作だけでなく唇の動きまでを確認できるので、手話を学習するシステムにも応用できます。

Q これからの目標をお聞かせください

今後は、口が開いた状態と閉まった状態で、唇がどのような形状で検出されるのか、その傾向や特徴などを分析し、動画で唇の動作が認識できるように取り組んでいます。初年度に計画した「ウェアラブルデバイスでの手話読み取りシステムの実現」に向けて研究を一步でも進め、卒業までに、その成果を学会で発表することが目標です。

西村研究室はどんな研究室？

コアタイム制度が設けられているので、遅くまで研究で残ったり徹夜をしたりということはありません。研究室のメンバーとは毎日顔を合わせるので、研究や就職活動の悩みなども打ち明けやすいですし、周囲を見て自分も頑張ろうと思います。

西村 広光教授から二階さんへのメッセージ “楽しさの先に成果が作れる” 自分らしさを大切に進んでください。

物事をよく考えて取り組むタイプで、しっかりと内容を確認して動き出し、慎重に丁寧に取り組めます。ただ、一步一步に迷いを感じることもあるので、準備を整えたら自信を持って思い切って進めてください。今後は、二階君らしさが発揮できる様に研究テーマを進めてください。同じ成果を上げるのに、辛いけど成果が出ないということはありませんので、“楽しさの先に成果が作れる”ということを意識して欲しいと思っています。就職においても、個性を活かせる職場であり仕事であることを大事にしてください。



神奈川工科大学附属図書館

図書館の自習スペースをもっと活用しませんか？
ここには勉強ができる**空間**と勉強に使う**資料**、
スタッフの**サポート**が揃っています！

蔵書数24万冊、年間来館率は9割と学生のほぼ全員が利用している図書館。実は自習スペースには、まだまだ余裕があります。個人利用のほかに、ゼミやサークルなどで使用できるスペースやシラバスに掲載された教科書・授業参考図書が揃っている部屋も！文献の探し方やデータベースの使い方が分からないときには、図書館スタッフのサポートが受けられます。

読書を楽しみたいという人はもちろん、「自宅だと勉強に集中できない」「資料が揃わなくて課題が進まない」「効率よくゼミの課題を進めたい」という人は、ぜひ、図書館の自習スペースを利用してみましょう。



ロボット図書館員 Kibiro
(2018年7月頃より1階に設置予定)

【1階 ラーニングコモンズ】

自由に使える可動式のテーブルでは複数人でディスカッションができます。またレポート作成用のパソコンや、映画鑑賞もできる視聴覚ブースもあります。(無線LANあり)



【1階ブラウジングエリア】

新聞と雑誌が自由に閲覧できます。中央にはテーブル席が、窓側にはカウンター席とソファ席があります。



【3階Active Learning room Room1～3】

ゼミやサークル活動などグループでの使用に最適です。電子黒板BIGPADと壁一面のホワイトボードの使用ができます。
*1階カウンターにて予約(任意グループは当日申し込みのみ可)



【3階 Active Learning Room4】

ディスカッションテーブルと呼ばれるIT機器が設置されています。直感的にパワーポイントやPDFファイルを操作することができます。
*1階カウンターにて予約(任意グループは当日申し込みのみ可)



【2階南側自習エリア】

書架の周囲にある閲覧席。図書館らしい落ち着いた雰囲気の魅力です。



【2階グループ閲覧室】

ガラスで仕切られた自習空間です。静粛エリアとなる2階でも、この中では会話OKなので、グループで課題や自習に取り組むには最適です。机単位で利用を申し込みます。(無線LANあり)*1階カウンターにて受付



【2階北側自習エリア】

個人席と中央に仕切りのある4人掛けの閲覧席があるエリアです。個人で勉強に集中できるエリアです。



【3階 Reference Learning Room (授業参考図書室)】

シラバスに掲載された教科書や授業参考図書を集めた部屋です。個室のような閲覧席もあります。

自習にもランチにも待ち合わせにも便利です。

気軽に使えるキャンパス内の自習・休憩スペース



【情報学部棟 2階 自習・コミュニケーションスペース】
1階の自習スペースと合わせて席数は138席で、すべての席に電源コンセントと情報コンセントが設置されています。



【2号館 1階 学生ラウンジ】
広く落ち着いた雰囲気のスペースで、テーブル席とカウンター席があります。自動販売機も設置されています。



【看護医療棟 2階 ラウンジ】
窓に面したカフェのような雰囲気のおしゃれなスペースです。ここが「お気に入りの場所」という看護学科の学生は多いようです。



【5号館 1階 エントランスホール】
中央に配置されたフォーミュラーカーが、この場所を象徴しています。広く開放感のあるスペースです。

機械工学科新入生 フレッシューズキャンプを実施

かつて本学では、全学科の新入生やクラス担任の教員および運営に携わる上級生などが貸し切りバス50台ほどで出発し、一泊をする行事があり、その様子は非常に壮観であり、新入生たちも改めて大学という大きな組織の一員になったことを実感したと思われます。その後、フレッシューズキャンプと改称され、実施が学科ごとになったりと変遷を経ていますが、いずれにしても入学した新入生が初めて体験する大学行事であることは、今も昔も変わりません。

機械工学科では、本年度は静岡県伊東温泉に一泊二日の日程で、引率教員・学生と新入生総勢約145名が大型バス3台で出かけました。

新入生にとっては、連日の学内オリエンテーションなど初めて体験する学行事で心身ともに疲れていたのか、往路のバスの中やホテルに到着したばかりの全体会では、おとなしく静かで、ほとんど話し声も聞こえない状態でした。

初日は、各種ガイダンスや履修相談会、アドバイザー教員との懇親会などが実施され、新入生諸君は大学生活を経験する緊張の中にも、徐々に教員や友人と打ち解けていく様子がうかがえました。特に、夕食後に実施されたアドバイザー教員との懇親会や、そのあの上級生による履修相談会などでは、新入生たちもかなり緊張がほぐれ、新しい友人もできた様子で、会場内の至る所から笑い声が聞こえていました。

近年は、フレッシューズキャンプをガイダンスに変更している学科が増えてきていますが、初日のバスに乗車するときの緊張した新入生の面持ちから、履修相談会などでの様子、二日目の見学先や昼食時での様子など、明らかに変わっていく新入生の表情を目の当たりにすると、キャンプを行うことの長所を実感しました。

(文責:機械工学科准教授/矢田直之)



機械工学科 航空宇宙学専攻生の大学院進学状況

機械工学科では、毎年10名前後の学生が大学院に進学しています。多くは内部進学により本学大学院に進学しますが、近年、航空宇宙学専攻生の間では国立大学大学院への進学希望が増えています。このため、一昨年度と昨年度を合わせると、5名の航空宇宙学専攻卒業生が国立大学大学院に進学しており、その内訳は、筑波大学大学院システム情報工学研究科構造エネルギー工学専攻:4名、千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻:1名となっています。また、本学の研究活動を活性化させるためには、内部進学者の増えることが望ましいのですが、この点においても航空宇宙学専攻生は健闘しており、一昨年は4名、昨年度は6名が本学大学院に進学。その大半が授業料が全額・半額免除者です。特に、航空宇宙学専攻の場合は、例年入学生が25名程度であることを鑑みると、本学の中では高い水準の外部・内部大学院進学率となっています。

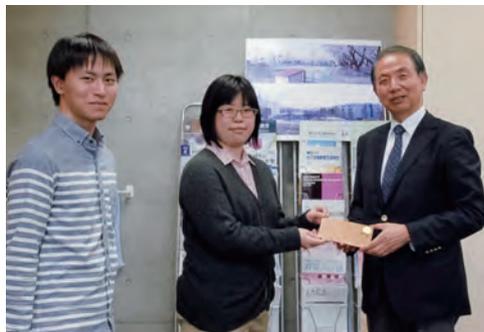
(文責:機械工学科准教授/中根一朗)

全学年懇親会 「縦コン」を開催!

6月12日、電気電子情報工学科の全学年懇親会(通称:縦コン)を開催しました。中でも、ビンゴゲームは、小宮学長をはじめとする先生方から寄付された景品を獲得するため、大変盛り上がりました。

また、昨年の機徳祭で行った模擬店の売り上げを用いて、本年度は例年以上に豪華な食事が提供されました。日頃、他の学年の学生と交流する機会は少ないため、この日は先輩・後輩関係なく食べて遊んで楽しみました。縦コン幹事団は常に新たなメンバーを募集しています。

(文責:電気電子情報工学科教授/小室貴紀)



学長より図書カードが贈られました



会場の様子



縦コン幹事の方々

「PV Japan 2018」で 電気電子情報工学科の学生が 研究成果を発表

6月20日～22日の3日間、パシフィコ横浜で開催された太陽光発電関連の主要な展示会「PV Japan 2018 & 再生可能エネルギー世界展示会」に電気電子情報工学科板子研究室が展示を行いました。

太陽光発電システムのアレイの光が不均一な場合でも、各パネルの出力可能電力を100%取り出す

ことのできるアクティブPVアレイの開発を行い、大学院1年生の竹田雄亮さん、学部4年生の丹治宏彰さん、藤井優貴さんらがその研究成果を発表しました。また、学部4年生の小井沼和哉さん、大谷敦也さんは、太陽光発電システムを運用しながらリアルタイムでパネルのホットスポットを検出し、さらにその発熱を抑制するための新しい制御方式について研究成果を発表するなど活躍しました。

(文責:電気電子情報工学科教授/板子一隆)



左から、丹治さん、藤井さん、竹田さん、小井沼さん、大谷さん

フレッシューズを迎えて

今年の春は暖かな日が続いたため桜の開花が早く、急に春になった、という感じで時間が過ぎていきました。そのような中で、今年も応用化学科では65名の新1年生(フレッシューズ)を迎える事ができました。そして、昨年度から引き続き新1年生を温かく迎えるイベントを2つ企画しました。1つは「フレッシューズ父母の会」です。日頃、ご父母、保護者の方々とお話しすることは多くないため、入学式の当日にご挨拶させていただく機会を設けました。式典が行われる午前中に、4年間の学生生活の過ごし方や、注意したい点などを、クラス担任との歓談を交えながら、情報を共有しました。和やかな雰囲気、ご父母と話しをさせていただく大変よい機会となりました。一方、新入生の皆さんは、入学式の翌日から温泉で「フレッシューズキャンプ」を行いました。温泉にゆっくり浸かったり、野営で飯ごう炊さんというわけではなく、山梨の石和温泉のホテルにおいて、自己紹介やコース分け、時間割作成など、どちらかといえばあまり時間のない中での作業となりました。はじめは緊張した雰囲気がありましたが、アイスブレイクの余興のあとは、急に打ち解けた様子で和気あいあいと過ごすことができました。時間割を作るという作業は、高校までは経験のないことなので、戸惑いもあったようですが、全員無事に作成できました。この号が発行されるときは学生生活にも余裕がでてきているのではないのでしょうか。



JABEEプログラムが継続認定されました

応用化学科の化学技術者を育成するコースとして、「総合化学エンジニアリングコース」があります。本コースは日本技術者教育認定機構(JABEE)によって、教育プログラムの審査を受けています。審査される内容は、「技術者教育としてふさわしい内容の教育を行っているか」に尽きるのですが、実際は教育体型、教育内容、実践的導入、質的な保証等、多岐にわたります。これまで6年の認定を頂いており、昨年度継続認定をもとめて、審査を受審して、本年4月に継続して認定されたとの嬉しい知らせをいただきました。認定は、また6年となりました。(認定するのに不足している事項があると3年間の認定になります)。本コースの認定は、教育の質が世界でも通用し、世界中で共通に認められることにあります。今後も、より良い技術者育成に向けて応用化学科一同で取り組んでいきます。



臨床工学科

フレッシューズ・ガイダンスを実施

今年度、4期生となる新入生39名を迎えることができました。そして、4月5日・6日の2日間、臨床工学科フレッシューズ・ガイダンスが実施されました。

1日目は、学科教職員の紹介の後、学科における学びの姿勢と、臨床工学技士の仕事内容とマナーに関して説明がありました。昼食は、学生・教員揃っての会食で、2～4年生も10名ほど参加し、楽しい時間を過ごしました。午後は、附属図書館と基礎教育支援センターの紹介、クラス担当教員との懇談、4年生による学習の注意点の説明がありました。最後に教員から、なぜ臨床工学科を志望したのか、といった質問をし、学生2人1組で話し合うアクティブラーニング形式で、臨床工学技士になることへの覚悟を新たにしました。

2日目は、キャンパスツアー、パソコン講習を行い、学生相談室の先生によるレクリエーションを行いました。この2日間で、新入生同士の交流を深め、4年間の学びがスタートしました。

(文責:臨床工学科教授/松田 康広)



1組の皆さん



2組の皆さん

第28回日本臨床工学会における学生ボランティア活動

5月26日、27日の2日間にわたり、第28回日本臨床工学会がパシフィック横浜国際会議センターにて開催されました。神奈川県での開催は今回3回目、年々、参加者数の増加とともにホスト県としての対応は、ますます注目されるようになってきました。近年、臨床工学会が大規模化する中で、学生ボランティアによる会場整理は欠かせないものとなっています。本学科からは3年生を中心に、2年生も加わった18名の有志が会場整理に貢献しました。研究報告や会場内移動で忙しく行き来する臨床工学技士に数年後の自身の姿を重ねながらボランティアの任務を果たしたことと思います。往来する臨床工学技士に明るく挨拶をする本学科のボランティア学生の姿は、大変心地良く、そして頼もしいものでした。

(文責:臨床工学科教授/山家 敏彦)



新任のご挨拶

臨床工学科 助手 西村 宗修

4月より臨床工学科に助手として着任しました西村宗修と申します。2012年に臨床工学技士免許を、2018年3月に博士号を取得し現在に至ります。専門分野は循環生理学で、大学院では、ヒトが体位変換した際に適切な体血圧を保つために動く圧受容器反射を基本とした神経性調節機構についての基礎研究を行いました。臨床工学科では主に、臨床実習や国家試験対策、学内実習等の補助業務を行います。学生の皆さんには将来、豊富な専門知識を有した心優しい医療従事者になって欲しいと思います。皆さんが日々充実した学生生活を過ごし、笑顔で一歩踏み出せるように、微力ではありますが精一杯サポートさせていただきます。よろしくお願致します。



(公)自動車技術会 関東支部による 「2018年度第3回講演会『自動車の走りを制御する最新技術』を開催

6月29日、本学メディアホールにて、公益社団法人自動車技術会 関東支部が主催する「2018年度第3回講演会『自動車の走りを制御する最新技術』(協賛: 神奈川工科大学 先端自動車技術開発研究所)」が開催されました。

自動車産業界のエンジニアから自動車の最新技術を学ぶ学生など、定員を超える100名近い方が参加。自動車システム開発工学科 山門誠教授をはじめ、車両運動制御分野の専門家3名による講演を熱心に聴講されました。今回の講演で山門教授が紹介したのは、車両運動制御の基本に必要な運動方程式・モデル化、4WS(四輪操舵)の基礎、DYC(Direct Yaw-moment Control)の基礎です。車両運動制御において「運動方程式を作るとはどのようなことか」という話から始まり、4WSやDYCにおける運動方程式の考え方や導き方などについて解説しました。

また、先進技術研究所、及び、自動車工学棟の見学を実施。参加者の方は、本学の自動車研究施設や設備に興味深く見学され、研究車両の紹介をしていた学生に熱心に質問される方もおり、学生にとっても、良い経験となったようです。プログラムの最後に行われた「ラップアップミーティング」では、講師の方々と共に、本学の安部正人名誉教授、井上秀雄教授も登壇。自動車メーカー、サプライヤー、研究者など、それぞれの立場から語られる「車両運動制御の将来や課題」に頷く参加者の拍手をもって、和やかな雰囲気で行った講演会は締めくくられました。



公益社団法人自動車技術会 関東支部 主催
2018年度第3回講演会『自動車の走りを制御する最新技術(講演会と大学研究設備見学)』
(協賛: 神奈川工科大学 先端自動車技術開発研究所)

テーマ: さらなる安全、快適、高性能、そして楽しさを目指して

<車両運動制御の基本> 神奈川工科大学 創造工学部 自動車システム開発工学科 山門 誠教授

<安全・快適を実現する自動車の運動制御技術~G-Vectoring Control~>

(株)日立製作所 研究開発グループ 制御イノベーションセンタ 主任研究員 高橋 純也 氏

<新型車の車両運動制御~SUPER ALL WHEEL CONTROL (S-AWC)~>

三菱自動車工業(株)EV・パワートレイン技術開発本部 チーフテクノロジーエンジニア 澤瀬 薫 氏

見学施設: 先進技術研究所、自動車工学棟

カート大会を開催 学生チームが圧勝!

6月9日、「井上教授杯トヨタ-KAITカート大会」が、「御殿場オートパラダイス」で開催されました。大変良い天気にも恵まれて、熱く楽しい白熱したレースが展開されました。今年のガチチーム(本格的カートレース体験者)同士の対戦では、昨年の雪辱を果たしたKAIT学生チームの圧勝でした。また、カートは初体験の本学科3年生も、大変楽しんだ様子でした。自動車システム開発工学科の教員も、昨年に比べてタイムが向上し、気持ちの良い汗をかくことができました。トヨタのメンバーと本学学生たちも、走行方法や自動車論議に花が咲き、交友を深めることができ、楽しい一日となりました。カートレースは、次の開催を企画しています。



プロジェクト研究実践報告会

4月6日、フレッシュガイダンスにて、課外科目である「プロジェクト研究実践」の報告会を開催。2年生の発表が4件ありました。KORP(神奈川工科大学オリジナルロボット製作プロジェクト)のメンバーによって開発された「ジュースサーバーロボット」は、卓上にある



ジュースサーバーロボット

コップを探し出してジュースを注いでくれるロボットです。カメラとポンプを使って注ぐことに成功していました。「ETロボコンチーム」は、昨年の活動報告を行いました。1年生ながらRCコースを完走するという成績を収め、奨励賞を頂いています。今年も出場して3位以内入賞を目指しています。また、昨年の12月に開催された「課題解決型ロボコン」に参加した2チームが活動報告を行いました。当コンテストはWROの競技ルールに従い、学習や交流、そしてレベルアップのために学内で行われているものです。今回は残念な結果に終わりましたが、次回の参加チームには頑張ってもらいたいです。

(文責: ロボット・メカトロニクス学科准教授/吉留 忠史)

新任のご挨拶 ロボット・メカトロニクス学科 准教授 三枝 亮

本年4月にロボット・メカトロニクス学科に着任しました三枝 亮(さえぐさ りょう)と申します。病院や介護施設などの現場で人から生きる力を引き出すような、共生型ロボットの実現を目指しています。私どもの人間機械共生研究室では、ロボットの制御や機構に加えて、自己を認識したり道具を使う認知発達の学習システム、リハビリ活動を支援する身体インターフェース、親和性の高いロボットデザインなどの研究にも取り組んでおります。「面白いことをやり、やることで面白くなる」という理念のもとに、研究スタッフや学生の皆さんと楽しく研究を進めていくつもりです。動くロボットが出迎えてくれますので、気軽に研究室にお立ち寄りください。

【専門】人間機械共生

【担当授業科目】ロボット工学概論、ロボメカ基礎ユニット・II、卒業研究、他

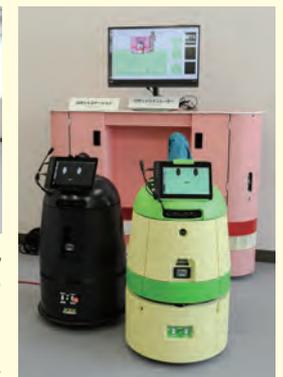
Topics

三枝准教授の研究チームが企業と共同開発した「介護医療コンシェルジュロボット」が新聞で紹介されました。ロボットはカメラが搭載されていて、移動する人



について行く形で見守りを行い、夜間など暗い施設内で、転倒者を発見すると応答や呼吸を確認し、職員に連絡を取るなど、見回り業務を行うことで高齢者施設の職員の負担を減らすことができます。4月27日、三枝准教授は、記者発表で同ロボットの説明を行いました。

<新聞掲載: 中部経済新聞、東日新聞、中日新聞、毎日新聞>



新学
期
ス
タ
ー
ト

「フレッシューズガイダンス」「オリエンテーション」を実施

2018年度入学生のフレッシューズガイダンスが4月5日・6日に実施されました。1日目の内容は教員紹介から始まり、学科の特徴的な授業である「企業連携プロジェクトI・II」の紹介と大学院生による事例説明がありました。また、本学科研究室に所属する電気電子工学専攻の大学院1年生による大学生活に関するアドバイスの時間が設けられました。その後、担当チューターによる基礎教育支援センターの説明を行い、聴講後、レゴブロックを活用したワークショップを実施。新入生はチームに分かれ、与えられた課題に対して試行錯誤を繰り返しながら元気に参加していました。ものづくりの基本が体験できたと思います。

今年度は「ものづくりのH科」を意識したワークショップやKAIT工房の見学が実施され、新入生も理解したのではないのでしょうか。今後の学生生活にぜひ活かして欲しいと思います。

始まりを迎えたのは1年生だけではなく、他の学年も同じく、新学期が始まりました。本学科は昨年度の就職内定率が100%となり、学科創設より非常に就職に強い学科としてのイメージが定着しています。

本学科のオリエンテーションでは学生の活躍に応じて表彰を行っています。成績優秀者だけでなく、学外活動や活動の実績に応じて表彰を行っています。学生には学内の活動だけでなく学外活動でも努力を続けて頂きたいと思います。定期的に多くの実績が挙げられる学科も少ないと思います。このような学生の姿勢が高い就職内定率に繋がっていると実感しています。



制限時間内に多くのブロックを取得した方が勝ちです



成績優秀者3年生



成績優秀者4年生



成績優秀者2年生

学科広報誌「HE-Press」表紙用写真の撮影を行いました

学科の広報誌として2009年に創刊された「HE-Press」はタブロイド判サイズから始まり、現在はA4サイズで発行され、より読みやすく学科の最新情報を発信しています。(卒業特別号や1年間の学外発表・活動の実績をまとめた号はタブロイド判サイズで発行) A4サイズ版の「HE-Press」の表紙は今年度より各学年の集合写真を掲載することになりました。学内で本紙を配布する機会はオープンキャンパスのみとなっていますが、学科HP (<http://www.he.kanagawa-it.ac.jp/student/>) 上でPDFとして保存されています。学科の発展や、これまでに活躍した卒業生たちの歴史が刻まれた広報誌です。皆さまぜひご確認下さい。

(文責:HE-Press編集長(二代目)三柄 貴行)



新しいバイオフィアミリー(13期生)を迎えて

4月5日・6日に、123名の新入生を迎えてフレッシューズキャンプに出かけました。大学で、学科教職員や行事の説明を行い、昼食後に南九十九里のホテルに移動し、クラス会を行いました。クラス会では、新入生の自己紹介や履修相談が行われました。履修相談には教員だけでなく14名の上級生も相談相手として参加し、先輩学生ならではの貴重なアドバイスが行われました。

また、4月10日は、キャンパスラリーを行い、その後、第1食堂にて応用バイオ科学科の「第12回縦コン」が開催されました。キャンパスラリーは、新入生同士の交流を深め、講義室・実験室などの場所を早く知ってもらうために、ウォークラリー形式で実施しました。新入生5名で1グループを作り、各ラリ場所ジャンケンやジェスチャーゲームをしてシールを集めてポイントを稼ぐチーム戦としました。数多くのラリー場所を回り、より多くのポイントを集めた上位3グループには、実験報告書の表紙、お菓子やドーナツの詰め合わせが贈呈されました。新入生は学科に馴染むことができたでしょうか。

「縦コン」は新入生を歓迎するイベントで、2年生を中心に、約200名の学生が縦コンを盛り上げてくれました。縦が交流する企画では、同じ出身地の学生が集まり、地元のアピールポイントについて議論を交わし、順番に皆さんに紹介する企画を行いました。地元自慢は、学年を問わず共通の話題であることから、縦の交流が活発に行われていました。



平成29年度 成績優秀者表彰

新学期ガイダンスに合わせて、平成29年度成績優秀者として以下の学生に、表彰状と記念品が授与されました。

新4年生:小山 菜穂さん、鈴木 峻介さん、渡邊 省吾さん
新3年生:丸尾 達也さん、秋末 花澄さん、神谷 彩夏さん
新2年生:秋山 佳穂さん、小林 宜正さん、太田 早紀さん

また、上記の学生と新3年生廣瀬 友輝さんに菊池幹夫奨励賞が授与されました。



2年生



3年生



4年生

フレッシューズキャンプを 実施しました

4月5日、6日の2日間にわたって、新入生恒例のフレッシューズ・キャンプを実施しました。今年の実施場所である河口湖周辺は、ちょうど桜の花が満開でした。残念ながら2日間とも曇天でしたが、道中のバスの中ではさっそくできた新しい仲間と盛り上がりっていました。河口湖フィールドセンターのデイキャンプ場では、班ごとにわかれてカレー作りと飯盒炊さんを体験しました。上手にできた班も、少し苦戦した班もありましたが、皆で協力して楽しく調理し、美味しいカレーライスをいただきました。ホテル到着後は、教員紹介や自己紹介、学科の説明、先輩によるアドバイスなど、これからの大学生活に関する様々な大切な話を聞き、大学生活への決意を新たにしました。

これからの4年間でたくさんのごことを学び、仲間とともに管理栄養士を目指して充実した大学生活を送りましょう！

(文責: 栄養生命科学科准教授 / 大澤 絢子)



学科紹介

栄養生命科学科 学科長 清瀬 千佳子

栄養生命科学科は管理栄養士養成施設としても認可されています。つまり、4年間で決められた科目の単位を修得し、卒業する事が出来ると「栄養士」の免許を取得出来ます。さらには「管理栄養士」の国家試験の受験資格が得られます。

入学後は管理栄養士の国家資格を取得するために必要なカリキュラムを履修します。座学や学生実験・実習、さらに「臨地実習」として、大型給食施設、病院や保健所等、4年間に3度学外で実習を行います。特に、2年次より社会に出る事から、社会人として必要な知識等を身につけるための学科独自のキャリア教育も行っています。

管理栄養士は様々な現場で活躍できる職業です。本学科の学生は管理栄養士として必要な学修をこなし、キャリア教育を受けた事で、より早く各業界から内定を頂き、卒業生は病院や特別養護施設等の医療現場、スポーツ栄養部門にも参加している給食受託会社、ドラッグストア、さらに食品会社での研究開発や公務員等多くの業種で活躍しています。

栄養生命科学科は今後も教職員一丸となって、様々な場で活躍できる管理栄養士を育成していきます。



入学前ガイダンス「KAIT WeV」を開催

3月30日、本学において「KAIT WeV」が開催されました。KAIT WeVは、4月から本学科へ入学する新入生を対象に、「大学生活へスムーズに移行し、授業に対する不安の解消や意欲の喚起、そして大学生活を円滑に送るための友人作り」を目的に実施しました。KAIT WeVは初の試みでしたが、KAIT pialに所属する情報工学科の学生たちで企画、実行しました。

午前中は大学での授業に向けた基礎知識の補習やプログラミング体験を行い、午後は、参加者がいくつかのグループに分かれてゲームを競いました。入学後のプログラミングの授業に必要とされる論理的思考を試すようなゲームを通して、グループ内のメンバーと話をしたり、相談して答えを探ることで新入生同士が少しずつ親しくなっていました。

ゲームの後は、情報工学科の教員も交えた軽食を取りながらの懇親会を実施。参加者のアンケートでは、「楽しかった」や「話せる人ができた」、「連絡先を交換した」、「友達が出来た」という回答がたくさんあったことから、この企画の目的である友人作りは十分達成できたと感じています。(文責: 情報工学科教授 / 宮崎 剛)

入学式にて「フレッシューズ父母の会」を開催

情報工学科では今年度初めての試みとして、新入生の保護者を対象とした懇談会を行いました。大学全体のことや学科の取り組み・サポート体制などについて理解を深めていただくことが目的です。高校生までと異なり、受講する科目を自分で選択したり、講義毎に教室の移動があるため、入学直後は戸惑いも多く大学生活に慣れるまでには時間を要します。他にも、様々なことに責任をもって行動することが要求されるようになるため、スタートで躓かないようにするためには大学教職員とご家庭の両面からの見守り・支援が不可欠となります。

オリエンテーションでは、留年率や退学率などの現実を理解して危機感をもっていただくとともに、本人の努力次第で有力大学に劣らないレベルの就職が決まることも夢ではないということをお伝えしました。懇談会と個別相談会では、それぞれ不安な点や知りたいことについて話し合う中で、保護者と教員との間に信頼関係を築くことができました。ご参加いただいた御父母の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

(文責: 情報工学科准教授 / 須藤 康裕)



学科全教員とクラス担任が懇談会に出席



就職・部活・奨学金などについて個別相談を実施

新任のご挨拶

情報工学科 教授 森 稔

本年4月に情報工学科に着任しました森 稔と申します。画像や映像の内容理解に向けた認識・検索・検出技術やそれを支える機械学習技術の創出、実利用を目的としたアプリケーションの考案、及び人の理解や感性との関係理解を専門にしています。森研究室では、上記の技術やアプリケーションを実現することで、世の中の利便性向上だけでなく、安心・安全や幸福度の向上なども目指しています。また、授業の実施や研究の指導だけでなく、前職の25年間の会社員生活から得られた様々な経験とを元に、将来皆さんが歩むべき道に関するアドバイスなども適宜していきたいと思っております。

【専門】パターン認識、画像・映像処理、機械学習 【担当授業科目】知識工学、情報工学応用ユニット及び、情報工学特別講義、C++言語(演習)、情報リテラシー、情報工リテラシー、卒業研究 他



新任のご挨拶

情報工学科 准教授 川喜田 佑介

本年4月より情報工学科に着任いたしました川喜田佑介と申します。身の回りのあらゆるモノをネットワーク化するモノのインターネット (Internet of Things: IoT) が注目されています。例えば、わが国の橋梁やトンネルなどの社会インフラの数量は膨大で老朽化しており、安価な構造物モニタリングが望まれています。モニタリングをバッテリーレスワイヤレス化し、損傷を自動的に検知できれば、これら社会的な課題解決に貢献できます。川喜田研究室では、バッテリーレスワイヤレス通信技術、無線信号処理のための分散処理、計測データのクラウド分析・機械学習を適用した損傷の予知・予防、無線周波数機械学習システム (RFMLS) の研究などを行っています。宜しくお願ひ致します。

【専門】IoT、ユビキタスコンピューティング、無線通信、多元接続技術 【担当授業科目】情報工学応用ユニット、C言語基礎ユニット、JAVA言語、情報工学応用ユニットII、情報工学特別講義、C言語基礎ユニット、キャリア設計、卒業研究 他



本学科の就職サポート

情報ネットワーク・コミュニケーション学科では、学科就職室を学生支援拠点として、学生の皆さんの就職活動を、様々な角度からサポートしています。

就職への意識が高まる3年生の秋から就職室を使う学生が多くなるため、この時期に「就職室ガイドツアー」を実施しています。このツアーでは、「就職の高い壁」を乗り越える心構えや、就職室の利用方法、先輩方の就職先など、就職活動全般について研究室ごとにレクチャーしています。

就職活動を成功させるには情報交換も重要です。研究室単位で、実際に社会で仕事に就いている先輩(卒業生)の経験談を聴く場を設けることもありますし、3年生全体に対しては、夏に「院生、学部4年生内定者が語る就職活動体験」と題した講演会を実施し、就職活動の最前線に早くから触れて貰っています。

また、3年後期から4年生にかけ、各研究室から「就職係」を1名選出しています。「就職係」は、毎週就職室に立ち寄り、就職室からの連絡を研究室に持ち帰る他、就職室に研究室のメンバーの様子を伝えるのが役割です。就職室ではその情報を元に、学生それぞれに合った就職活動のサポートを行います。時に就職活動に行き詰っているようなメンバーがいた場合には、就職係が積極的に声を掛けていきます。同じ思いをしている仲間との会話には、励まされるだけでなく、お互いが内定を勝ち取るための強い原動力にもなるようです。

就職室と研究室が一体となって「内定」というゴールを目指すことで、就職活動に対するモチベーションも上がり、高い内定率へと結びついています。

昨年度の本学科内定率は96.4%でした。最近、大学在籍中にネットワークの資格取得をしている学生が、大手のISP (Internet Service Provider)や大手通信会社の関連企業への就職に繋がった例が多くみられます。今年も順調に就職活動を進めている学生が多い印象です。3年次にインターンシップを経験している学生が成果を上げています。インターンシップを通して、就職活動が本格化する前に社会についての理解を深め、自分の将来を考える事で、リアリティのある就職活動に繋がっているようです。



研究紹介

「人への心遣い」があるシステムを目指して

凌研究室

情報ネットワーク・コミュニケーション学科 准教授 凌 暁洋

情報社会が進む現代社会においては、SNSといったような情報配信・情報共有の手段を利用して、ネットワーク上で社会活動を疑似的に体験しています。チャットシステムはよく知られている例です。特に最近はAI会話ロボットの開発が盛んで、介護用ロボットや接客用ロボットはすでに老人ホームや飲食店などに導入されています。ただし、これらは人間を補助する道具に過ぎず、実社会で起こり得る問題はここにも起こってしまいます。現在、スマートフォン中毒が高校生ぐらいの青年の間で多く発生しており、ネット利用関連の事故や事件も多発しています。また、人の気持ちを理解できない機械的な介護も望ましくありません。

凌研究室では、「人に心遣いをする」システムを目指しています。その中でもチャットシステムのあり方に着目し、チャット参加者の発言に対して分析し、ネガポジ判定を行う方法を研究しています。また、ネガポジ判定の結果の可視化方法や活かす方法などについても検討しています。図は、チャット参加者のネガポジ判定結果を点数化して表示できるようにしたチャットシステムのチャット画面の例です。この他にも直感的に分かるように色で表現したり、程度が分かるようにスケールをつけて表現するといった、いろいろなアイデアが考えられ、試作しています。さらに、情報心理学や認知心理学の知見を応用して、ネガポジ判定の結果に対してリアクションまたは介入する内容とその方法も検討しています。例えば、最近話題になった「りんな」のようなチャットボットを仮想参加者とし、その場の空気を読み、極端にならないように心掛けるといった介入方法を試しています。

評価システム

評価点: 0.999
15:21 (ごりら) 愛でたい
評価点: 0.984
15:21 (ごりら) JO
評価点: 0.000
15:21 (なすてん) ネット用語?
評価点: -1.412
15:22 (ごりら) ネット用語だね! JOだよ
評価点: -0.899

(ごりら)さんの評価点: 3.327点
(なすてん)さんの評価点: -0.085点

ネガポジ判定付きチャットシステム(参加者の判定点が付けられている)

本学科の学生が「おいらせ町移住プロモーション」の動画を制作

梶研究室で青森県おいらせ町の移住プロモーション用の動画を制作させていただきました。

同町の観光大使を務められている栄養生命学科の澤井明香准教授と情報メディア学科の坂内祐一教授の御仲介により、梶研究室からOGと現役生が制作全般に参加しました。

梶研究室OGの大塩彩実さんが監督、現役生の瀧口隼太郎さんが撮影、緑川雅人さんが編集、同じく現役生の藤田陽夏さん、澤井研究室の水尻麗菜さんが出演で活躍しました。

主演はプロの俳優さんである末柄拓郎さん、共演は島崎義久さんです。

撮影は、神奈川工科大学構内をはじめとして、青森県おいらせ町の市役所のご協力を得て、同町の名所を中心に行いました。

おいらせ町には、風光明媚な場所に建つ自由の女神像や美しい白鳥が飛来する湖、見上げるばかりの大銀杏の木、大山康晴晴聖の記念館などの見所が多々あります。

また、「鮭祭り」にも撮影及び参加させてもらい、同町の人々とも交流、「鮭のちゃん焼き」に舌鼓を打ちました。

今後も機会がありましたら、このような形で、地方自治体と連携しつつ、活性化等のお役に立てる動画制作を学生諸氏と研究室で行えればと考えています。

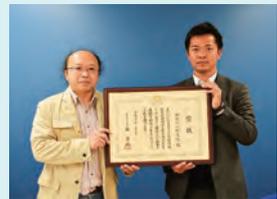
(文責:情報メディア学科教授/梶 研吾)



CG-ARTS協会より文部科学大臣賞「団体賞」を5年連続で受賞!

情報メディア学科は、平成29年度「CG-ARTS検定」で受験者310名のうち、155名の合格者を出し、CG-ARTS協会の所管である文部科学省から、優秀な成績を修めた団体として、5年連続となる文部科学大臣賞「団体賞」を受賞しました。

さらに、加入認定教育学校の中で、トップレベルの合格者数を記録した実績において、優秀校として表彰され、3月26日、CG-ARTS協会の小澤様から、情報メディア学科科長佐藤教授が、団体賞と優秀校の授与を受けました。また、個人賞「CG-ARTS賞」は、情報メディア学科4年渡辺龍之介さんが受賞しました。



新任のご挨拶

情報メディア学科 准教授 上田 麻理

本年4月より情報メディア学科に着任致しました上田麻理と申します。私の専門は音響工学で、音をベースとして、音と人のかかわりについて物理学的、生理・心理学的に解明した上で社会に役立つツールの開発や環境づくり等を行っています。例えば災害時の防災放送システムの改善と空間の制御、障害者の音による支援、聴こえ支援など福祉工学分野へのフィードバック、超音波領域の子供の聴こえのメカニズム解明等、「音」の可能性と重要性について様々な視点から追及しています。最近ではスポーツ音響学という新しい分野の立ち上げにも参画し、2020年のオリパラに向けて音響学の分野も積極的に参加・貢献していこうと考えています。



【専門】音響工学

【担当授業科目】情報メディア専門ユニット、サウンドコミュニケーションユニット、情報メディア基礎ユニット、音声コミュニケーション概論、卒業研究、他

よりよい看護を創造できる看護師を目指して—完成年度を迎えた本学科の取り組み

看護学部は今年度4期生が入学し全学年が揃いました。1期生である4年生は、病院や福祉施設での臨床実習をほぼ終え、就職活動も始まりました。そして2019年2月には本学では、はじめて「保健師国家試験」「看護師国家試験」に挑みます。

国家試験を突破することは容易ではありません。厚生労働省が発表している看護職員需要では、10年間で約40～50万人の増加（毎年4～5万人の増加）が見込まれています。しかし、看護師養成施設は年々増加し、2018年1月時点で225大学を含む1027校で約6.6万人/年の看護師のたまごが養成されています。そして今後も養成施設は増えていきます。つまり、受験者数は増加の一途をたどりませんが、合格者数は頭打ちとなり合格率は下がっていくこととなります。さらに保健師の資格を得るためには、保健師国家試験と看護師国家試験の両方に合格しなければなりません。

看護の現場で問われる問いには、たくさんの正解があり、患者の状態が悪くなってしまうような明らかな不正解以外であれば、ほぼすべてが正解です。その正解の中から、その人にとってよりよい正解を探していきます。そのためにたくさんの科目の知識を統合し、身体的・心理的・社会的・霊的など多方面から人を捉えなければならぬところが、看護学の面白いところであり難しいところでもあります。基礎的な知識をしっかりと身につけて国家試験を突破することはもちろん、患者に寄り添い、よりよい看護を創造できる看護師を目指し、看護学部では1年次から授業以外に国家試験対策として学習会を実施してきました。低学年では学年を超えた交流をしたり、基礎科目の復習や学習方法を学びました。3年生からは各々の実習体験を通じた学習を共有しあうことで学びを深めてきました。そして4年生となった今年度は、年間を通じて学生と教員が一致団結し国家試験全員合格を目指し、主体的に個別の課題に取り組んでいます。努力の成果にご期待ください。

（文責：看護学科講師／杉山 洋介）



新任教員紹介



<看護管理学領域>

教授 新実 絹代

【専門】看護管理学
【担当授業科目】看護管理学、実践総合演習(OSCE)、卒業論文



<精神看護学領域>

講師 田代 誠

【専門】精神看護学
【担当授業科目】精神看護活動論I、精神看護活動論II、精神看護学実習、実践総合演習(OSCE)、看護統合実習



<母性看護学領域>

助手 桑原 さやか

【専門】母性看護学



<公衆衛生看護学領域>

助手 川田 恵利子

【専門】公衆衛生看護学



<小児看護学領域>

助手 佐伯 千寿子

【専門】基礎看護学

学生☆活躍

「ワールド・エコノ・ムーブ2018」燃料電池部門で3位入賞

5月4日、5日に、秋田県大瀧村ソーラースポーツラインにて小型自動車の全国大会である「ワールド・エコノ・ムーブ2018」が開催され、本学の「EVエコランカープロジェクト」が参戦。燃料電池部門で第三位に入賞しました。

燃料電池車は水素と酸素を燃料として発電し走行する電気自動車です。そのため、燃料電池が発電できないと、まったく走行できなくなります。本学チームは、100Wの燃料電池を使用していますが、劣化のため約30W程度しか発電できなくなり、非常事態となりました。

しかし、微小なワット数でもなんとか走行しようと、電気二重層キャパシターや、水素吸蔵合金ポンベの使い方、全体エネルギーマネジメントなどを検討しました。

水素吸蔵合金ポンベは水素を放出すると冷えて水素を放出しなくな

る特性を有しているため、2本のポンベを交互に使用して冷却速度を低下させる試みをした結果、約6kmの走行距離を達成できました。

学生たちの努力の賜物であり、今後も素晴らしい活躍を期待しています。

また、大会会場では、インドネシアからの参加チームとの国際交流もできました。

大会参戦を無事に終えて、皆様のご支援に感謝いたします。

ファカルティアドバイザー／高橋 良彦(ロボット・メカトロニクス学科教授)

<大会遠征チームメンバー>

池元 建斗(大学院機械システム工学専攻博士前期課程2年)

内山 凌(大学院機械システム工学専攻博士前期課程1年)

平良 彬(自動車システム開発工学科4年)



走行の様子



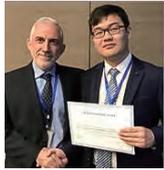
本学チームの学生



インドネシアチームとの交流

電気電子工学専攻の大学院生が国際学会で Best Presentation Awardを受賞

3月30日～4月1日に国際学会「2018 International Conference on Power, Energy and Electrical Engineering (東京)」が開催され、世界各国から電力エネルギー関係の研究者が参加し、活発な議論が行われました。本学大学院電気電子工学専攻2年生の楊 帥さん(中国揚州大学からの留学生:板子研究室所属)は、太陽光発電システムのための新しい高効率制御法に関する研究成果のオーラル発表を行



楊 帥さん(右)

い、Best Presentation Awardを受賞しました。
 <論文タイトル>
 "Development of a Novel MPPT Method for Improving Efficiency of PV Generation System Under Partial Shadow"

硬式野球部が神奈川大学野球春季リーグにおいて準優勝

本学硬式野球部が平成30年度神奈川大学野球春季リーグ1部において、準優勝を果たしました。

<春季リーグ戦チーム成績>

8勝4敗(勝点4、勝率0.667)第2位、本学硬式野球部から4名の選手が受賞しました。

<フレッシュマン賞>

浅野 能輝 投手 情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科1年

<打点賞:13打点>

長嶋 亮磨 外野手 創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科3年

<ベストナイン>

嶋田 直人 二塁手 情報学部情報工学科3年

下東 稜 三塁手 情報学部情報工学科4年

(※関連記事を本誌P.16に掲載)

『中部謙次郎賞』『大岐良一賞』『石原健男賞』『加賀信男賞』表彰

本学大学院博士前期課程に在籍する大学院生を対象とする奨学金制度である『中部謙次郎賞』、『大岐良一賞』、『石原健男賞』『加賀信男賞』の授与式が5月29日に学長室で行われました。



本賞は、中部謙次郎氏、大岐良一先生、石原健男先生、加賀信男先生の四氏の生前の業績と教育奨励に対する強い思いを末永く顕彰するため、毎年、中部謙一郎理事長が個人の資金を提供し、継続している奨学金制度です。

授与式では小宮学長から、成績および人物ともに優秀な学生に奨学金が授与されました。

<平成30年度受賞者>

『中部謙次郎賞』受賞者 築地 勇人さん(情報工学専攻)

『大岐良一賞』受賞者 ファンヴァン ロックさん(ロボット・メカトロニクスシステム専攻)

『石原健男賞』受賞者 小山内 裕太さん(機械工学専攻)

『加賀信男賞』受賞者 喜古 悠雅さん(機械システム工学専攻)

男子バレーボール部が春季リーグ戦で2部に昇格

本学男子バレーボール部は、「2018年度関東大学バレーボール3部春季リーグ戦」において、5月26日、順天堂大学で行われた入替戦で、桜美林大学(2部11位)に勝利し、2部リーグへ昇格しました。



本学バレーボール部にとっては歴史的な快挙で、また、本学運動部においても最も高いレベルのリーグに所属することになりました。

新井奨学金授与式を行いました

6月18日、平成30年度新井奨学金授与式が行われ、小宮学長より奨学金が授与されました。同奨学金は、故新井清之助名誉教授から奨学の目的で贈られた寄付金を、本学学生(学部3・4年生対象)の学業・人物ともに優れた学生に給費されます。

<平成30年度 新井奨学金授与者>

■工学部

機械工学科 安田 悠人さん
 電気電子情報工学科 牧 優太さん
 応用化学科 岡村 勇斗さん
 臨床工学科 長尾 大佑さん

■情報学部

情報工学科 長沼 一輝さん
 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 後藤 陽伸さん
 情報メディア学科 土屋 正さん

■創造工学部

自動車システム開発工学科 櫻井 太智さん
 ロボット・メカトロニクス学科 大山 大貴さん
 ホームエレクトロニクス開発学科 酒井 貴洋さん

■応用バイオ科学部

応用バイオ科学科 小山 菜穂さん
 栄養生命科学科 内田 聖奈さん

■看護学部

看護学科 杉田 笑里さん



本学大学院修了生が電気科学技術奨励学生賞を受賞

大学院電気電子工学専攻を昨年度修了した金澤宏介さん(奥村研究室)が、電気科学技術奨励会主宰の2017年度「電気科学技術奨励学生賞」を受賞し、6月6日、機械振興会館にて表彰式が行われました。



この賞は、日本国内で開催される国際会議において、優秀な論文を発表した大学院生・大学生を対象に顕彰されるものです。主に電気系5学会(電気学会、電子情報通信学会、情報処理学会、映像情報メディア学会、照明学会)の推薦により、毎年10名程度を上限に贈られます。

金澤さんは、IDW2017で発表した下記の論文で、映像情報メディア学会の推薦を受けて受賞しました。

"Optimization of Flashing Period for Line Display Using Saccade Eyeball Movement"



春季リーグ戦準優勝と秋季リーグ戦への課題 文武両道の先にある野球への取り組み

平日の練習時間は、4限目が終わる17時から20時、もしくは21時までであり、5限目を履修している部員は、講義終了後、練習に参加します。本学の部活動の大前提である文武両道を続けるには、常に学業を優先にすることが必要ですから、特に1、2年生には「学業に食らいついていかないと単位は取れない」と話しています。私も本学野球部のOBなので、学業と野球の両立の大切さと、神奈川大学野球1部リーグで戦うことの大変さは身をもって知っています。

今年の春季リーグ戦では、主力だった4年生投手が卒業したため、経験や実績の少ない投手ばかりでのスタートとなりました。それでも準優勝できたのは、これまで経験を積んできた野手が投手をカバーして、誰もが打撃に集中し「打ち勝つ野球」を実践したからでしょう。捕手(主将)は、経験の少ない投手をよくリードしていましたし、1年生投手は春季リーグ戦の後半には力を発揮し、新人賞を獲得しました。数年前に比べると、レギュラーとそれ以外の選手の実力の差が縮まってきているように感じています。

4年生の何名かは春季リーグ戦を期に引退します。秋季リーグ戦に向けて、ここからは、新戦力となる選手を採り育成していくことが課題となります。オープン戦・紅白戦を行うなど、部員たちが競う力を発揮できる機会を増やしていきたいと考えています。

硬式野球部
監督 新田 晃司
(神奈川工科大学経営管理本部 管財課長)



“打ち勝つ野球”で秋季リーグ戦では優勝を!

硬式野球部 主将
高村 走 (創造工学部 ホームエレクトロニクス開発学科 4年)

チーム作りでは、ある程度の上下関係は保ちながらも、先輩が先輩にも発言できるような環境を作るように心がけています。また、監督からも言われていますが、まずは学業を優先することを大前提に、「しっかりと野球をやる」ということをチーム全員で徹底しています。

春季リーグ戦では、めざしていたのは優勝だったので、正直なところ準優勝という結果は悔しいです。野手については、試合経験も積み力も蓄えていたので心配はありませんでしたが、投手については、リーグ戦を経験したメンバーが少なかったため苦戦する場面もありました。捕手である私は、バッテリーとしての責任を共有し試合に臨んだことが、結果を残せた理由の一つだと感じています。

日々の練習では、「打ち勝つ野球」を目標に、誰もがバッティング練習に集中して取り組んでいます。今回のリーグ戦で準優勝できたことで、自分たちの実力が十分通用するものだと分かりました。秋季リーグ戦では、この力を必ず優勝につなげていきたいです。



神奈川大学野球春季リーグ戦で受賞!

<フレッシュマン賞>

浅野 能輝 投手

情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科1年

緊張はありましたが、平常心を保ち、投げ続けました。最後まで諦めずに戦い抜いて、準優勝に進めて良かったです。賞を励みに秋季リーグ戦でも頑張りたいです。



<打点賞:13打点>

長嶋 亮磨 外野手

創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科3年

学業もあり練習時間も短いのので、自分の中で常に試合を想定して、試合をイメージしながら練習しています。春季リーグ戦での反省点を改善し、秋季リーグ戦で結果を出したいと思っています。



<ベストナイン>

嶋田 直人 二塁手

情報学部情報工学科3年

準優勝はチームにとっても私自身にとっても、大きな意味があると感じています。秋季リーグ戦では優勝をめざすと同時に、もっと自信を持てるように練習をして、賞がもらえるように頑張ります。



下東 稜 三塁手

情報学部情報工学科4年

接戦になったときに必要な“最後の詰め”がこれからの課題です。秋季リーグ戦でも、しっかりとチームに貢献できるように活躍して、賞も獲得できればと思っています。秋季リーグ戦では、絶対に優勝したいです。



Office Information

オフィスイノベーション

経営管理本部

総務課

理事・評議員重任について

理事・理事長重任

中部 謙一郎(任期:2018年9月1日~2022年8月31日 4年間)

評議員重任

小宮 一三(任期:2018年4月1日~2021年3月31日 3年間)

石上 純男(任期:2018年7月1日~2021年6月30日 3年間)

教職員の人事発令

平成30年3月31日付け

【定年退職】

工学部応用化学科 教授 伊熊 泰郎

工学部応用化学科 教授 佐藤 生男

情報学部情報工学科 教授 山本 富士男

情報学部情報メディア学科 教授 速水 治夫

基礎・教養教育センター 教授 尾崎 正延

学生支援本部卒業生支援課 鈴木 成司

【教育職員自己都合退職】

情報学部情報工学科 教授 松田 三知子

情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科 教授 中村 誠

基礎・教養教育センター 教授 坂場 順子

看護学部看護学科 准教授 佐藤 美由紀

看護学部看護学科 任期制講師 松尾 綾

情報学部情報メディア学科 任期制助教 牧 奈歩美

平成30年4月1日付け

【教育職員新規採用】

情報学部情報工学科 教授 森 稔

看護学部看護学科 特任教授 新実 絹代

情報学部情報工学科 准教授 川喜田 佑介

情報学部情報メディア学科 准教授 上田 麻理

創造工学部ロボット・メカトロニクス学科 准教授 三枝 亮

看護学部看護学科 任期制講師 田代 誠

【任期制助手新規採用】

工学部臨床工学科 西村 宗修

看護学部看護学科 川田 恵利子

看護学部看護学科 桑原 さやか

【教育職員昇任】

<准教授から教授への昇任>

情報学部情報工学科 鷹野 孝典

情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科 岡本 学

応用バイオ科学部応用バイオ科学科 岩本 嗣

看護学部看護学科 小野 智佐子

<任期制講師から任期制准教授への昇任>

看護学部看護学科 橋本 真由美

<任期制助教から任期制講師への昇任>

看護学部看護学科 坂東 美知代

【任期制教員の期間の定めのない雇用への変更】

情報学部情報工学科 准教授 須藤 康裕

情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科 准教授 岩田 一

情報学部情報メディア学科 准教授 鈴木 浩

【教育職員所属変更】

創造工学部ロボット・メカトロニクス学科 教授 高橋 良彦

工学教育研究推進機構 教授 石井 光教

【特任教員雇用期間更新】

工学部機械工学科 特任教授 大久保 博志

応用バイオ科学部栄養生命科学科 特任教授 岡田 知雄

情報学部情報メディア学科 特任准教授 中村 隆之

【任期制助手雇用期間更新】

応用バイオ科学部栄養生命科学科 永瀬 摩奈

看護学部看護学科 西 法子

看護学部看護学科 佐口 清美

看護学部看護学科 田代 桂子

看護学部看護学科 中林 誠

【准職位事務職員新規採用】

学生支援本部教務課 准課長代理 湯田平 咲弥香

庶務課付 島村 純平

平成30年4月19日付け

【任期制助手休職】

看護学部看護学科 川崎 祐実

平成30年5月1日付け

【任期制助手新規採用】

応用バイオ科学部栄養生命科学科 上野 英一

【事務職員配属先決定】

学生支援本部学生課 島村 純平

【事務職員配置転換】

経営管理本部庶務課 係長 杉崎 克多

【事務職員兼担当】

障害学生支援室 担当部長兼担当 鈴木 隆

障害学生支援室 課長兼担当 領家 訓広

平成30年5月31日付け

【教育職員自己都合退職】

情報学部情報メディア学科 准教授 白井 暁彦

平成30年6月1日付け

【特任教員新規採用】

情報学部 特任教授 瀬川 克啓

【任期制助手新規採用】

看護学部看護学科 任期制助手 佐伯 千寿子

【事務職員兼務解除】

学生支援本部 教務課係長兼務解除 根岸 忠宏

管財課

エコ活動の報告

本学の「ECO推進チームみどり」の学生が下記の活動を行いました。

<5月>神奈川県相模川サミット合同グリーンキャンペーンに参加し、相模川河川敷清掃活動を実施。

厚木市南毛利南地区青少年健全育成連絡協議会主催「どろんごパレーボール大会」にて本学の災害時備蓄水を活用し、泥落とし給水ボランティア活動を実施しました。

<6月>クールビズ推進ポスター学内掲示、学生サービス講義棟の西面ガラス部分に「遮光カーテン」を設置しました。



学生支援本部

教務課

今後の主な予定

<前期授業終了> 7月28日(土)

<前期定期試験期間> 7月30日(月)~8月3日(金)

<前期追試期間> 9月3日(月)、6日(木)、7日(金)

<夏期休業期間> 8月4日(土)~9月20日(木)

<後期ガイダンス及び成績表配付> 9月21日(金)

<後期授業開始> 9月22日(土)

<後期科目履修修正期間> 9月24日(月)~9月27日(木)

<履修キャンセル期間> 10月18日(木)~10月26日(金)

教職教育センター

平成31年度公立学校教員採用試験(30年度実施)の受験に向けて

○7月中:各都道府県で採用試験の実施→一次合格発表(7月下旬~8月上旬)

○8月4日(土)・5日(日):二次試験対策

一次試験合格者に対し、二次試験の受験に向けて、模擬授業や面接試験等人物重視の試験対策を重点的に実施します。

平成31年度の受験に向けた対策をスタートします。

○9月5日(水)~9月14日(金)(8日間):夏期集中講座の実施(講師:東京アカデミー)

大手予備校の講師から受験に必要な基礎を徹底的に学び、本格的な受験対策を開始します。

○9月14日(金):神奈川県の本年度実施問題による模試
神奈川県が本年度実施した問題に挑戦し、現段階における各自の実力測定と今後の目標を定めるための参考資料にします。

○10月1日(月)~12月21日(金)(約3か月間):「後期対策講座」の実施

前期同様に添削指導をメインとした受験対策(一般教養・教職教養・専門教科・論作文等)を行います。

学生課

「父母説明会・個別相談会(本学)」開催について

2018年度父母説明会・個別相談会は、以下の日程で開催します。本学の支援体制の説明やキャンパスツアー、およびクラス担任との個別相談の時間も設けております。5月に開催した新入生父母説明会・地区別父母説明会に参加できなかった皆様は是非、この機会をご利用いただけます。どうぞご参加ください。

なお、案内状の発送は8月中旬を予定しています。

開催日:9月22日(土) 場所:神奈川工科大学

キャリア就職課

2020年卒生対象「就活セミナー」

<後期就活セミナー>

9月25日(火)・26日(水)「第1回就活の第一歩「エントリー編」、進路希望調査」

10月2日(火)・3日(水)「第2回エントリーシート対策~導入編~」

10月9日(火)・10日(水)「第3回エントリーシート対策I」

10月16日(火)・17日(水)「第4回エントリーシート対策II」

10月23日(火)・24日(水)「第5回就活の必須「面接試験編」」

「魅力ある企業研究会」実践!企業訪問インタビュー

様々な業界の大手企業や優良BtoB企業を中心に、学生自身が企業を訪問し、担当者に直接インタビューする企画を毎年夏休みに実施しています。今年も20~25社を予定しています。学年、学部学科は問いません(院生も可)。進路を研究する機会として推奨します。

インターンシップ推進室からのお知らせ

インターンシップ推進室では、夏期休暇中のインターンシッププログラムについて、各企業から寄せられた参加者募集に関する情報を公開しています。インターンシップの種類は「就業体験型インターンシップ」、「課題解決型インターンシップ」があります。就業体験や課題解決に取り組むことで、一歩踏み出す力(主体性)、考え抜く力(問題解決力)、チームで働く力(協調性、コミュニケーション力等)が、いかに働く場面で大切かを知り、今後の大学生活ですべきことを明確にすることが期待できます。大学生の夏休みだからこそ体験できるのがインターンシップです。キャンパスから一歩外に出て学び、将来の選択の幅を広げるにつなげてください。インターンシップ参加についての質問など、お気軽にインターンシップ推進室(K2-1Fキャリア就職課の前) お問い合わせください。

キャリアアドバイザーを活用しよう!

就職活動中の学生はもちろん、他の学年の学生もキャリアアドバイザーを活用することができます。夏休みにインターンシップに参加する3年生、2年生の方は、企業へ提出する書類は、提出前に一度キャリアアドバイザーの添削を受けることを推奨します。自己PRや志望動機の手書き方について等、個別対応でアドバイスをします。(事前予約制)

本学ホームページ 就職・キャリア総合サイト[KAIT Career]から予約してください。

【学生向けページ】→キャリアアドバイザー面談予約フォーム

ID:学籍番号 PW:西暦8桁の生年月日

中学・高校・高専生対象

ITに関する「夢」を語る「IT夢コン」を今年も開催します!

「夢」を語ることを通した未来を担う若い人材の育成支援

IT夢コンテスト(IT夢コン)は、全国の中学生・高校生・高専生(3年生以下)を対象に、IT(情報技術)で実現できる未来の社会や新たなサービスなどに関する「夢」を語ってもらうコンテストです。本コンテストを通して、中学生・高校生・高専生のITに対する理解や興味を高めるとともに、創造力・問題発見能力・コミュニケーション力などの能力開発の支援を目的とし、2011年から本学主催で開催し、今年で8回目を迎えます。昨年は、全国から34校、208作品の応募がありました。

今年のIT夢コンテスト

これまでのIT夢コンテストでは、いくつかの募集テーマを提示して、そのテーマに関する夢を考えていただきました。近年では、AI技術革新や2年後に迫った東京オリンピック・パラリンピックなど、アイデアを考える元となる要素は盛りだくさんとなってきました。そこで、今年は募集テーマを決めず、中高生の柔軟で自由な発想から生まれるアイデアを募集することにしました。

最終審査会では、書類審査によって選出された30作品が、ポスター発表による一次審査を受け、そこから選出された8作品が、質疑応答も含めたプレゼンテーション形式の最終審査に挑みます。一次審査前のポスター発表では、参加した中高生同士の投票によって決定する「ピア賞」も予定しています。最終審査の審査員には、本学教員と学生に加えて、神奈川県教育委員会の先生、情報技術に関する最先端企業の研究所員、本学の包括的連携協力の協力大学の久留米工業大学の教授、そして、タレントの蒼あんな・れいなさんを迎えて実施します。久留米工業大学とは、インターネットを通じた遠隔審査員を予定しており、審査員は久留米大学にしながら本学で行われる最終審査を聴き、審査を行います。最終審査後には参加者懇談会を行い、普段はあまり関わることのない学校の先生や生徒の皆様の交流を広げていただこうと考えています。

今年の最終審査会は、7月28日(土)に本学で開催いたします。皆様のご来場と出場者への応援をお願いいたします。詳細は、<http://kait.jp/yume/>をご確認ください。(文責:情報工学科教授/宮崎 剛)



名誉教授記授与式を挙行

6月21日、情報学部棟貴賓室において、名誉教授記授与式が執り行われました。小宮一三学長より、以下の7名の方々に名誉教授の称号が授与され、永年に亘り本学の教育・研究の分野において、多大な貢献をされたことに対し感謝の言葉が贈られました。

<名誉教授記 授与者>

- | | |
|---------|-----------------------------------|
| 伊 熊 泰 郎 | 名誉教授(元工学部応用化学科教授) |
| 佐 藤 生 男 | 名誉教授(元工学部応用化学科教授) |
| 山 本 富士男 | 名誉教授(元情報学部情報工学科教授) |
| 松 田 三知子 | 名誉教授(元情報学部情報工学科教授) |
| 中 村 誠 | 名誉教授(元情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科教授) |
| 速 水 治 夫 | 名誉教授(元情報学部情報メディア学科教授) |
| 尾 崎 正 延 | 名誉教授(元基礎・教養教育センター教授) |



「神奈川工科大学 読書コンテスト 2018」発表会(最終審査)を開催します。

開催日
9月21日(金) 16:40～

一次審査の上位10名によるプレゼン発表にて各賞を決定(発表会後に表彰パーティを予定しています)
主催:基礎・教養教育センター、附属図書館

読書コンテストとは

本を読んで心に響いたことを文章とプレゼンテーションで発表するコンテストです。大学生活では、自ら気づき、学び、答えを見つけることが成長につながります。読書はそのための第一歩です。自分自身を表現する「場」として、貴方の中に眠る知的創造力の開花、成長を応援します。

募集要項

- ◎ 応募資格 本学の学生(大学院生含む)
- ◎ 応募方法 好きな本を読み、心に響いたことを500字(原簿書き:科設ページ内から50)にまとめ下部アドレス宛に送付してください
- ◎ 届出アドレス dokucon@cco.kanagawa-it.ac.jp
- ◎ 作品募集期間 5月15(火)～7月20日(金)
- ◎ 発表会 9月21日(金)5時
一次審査の上位10名によるプレゼン発表にて各賞を決定します
表彰式、懇談会、表彰パーティを予定しています
*コロナウイルス感染症拡大防止のため会場を必要に応じて変更いたします
- ◎ 表彰 学長賞、図書館長賞、他(審査委員長賞あり)

主催:基礎・教養教育センター・附属図書館(事務局:基礎教育センター)

ホームカミングデーを開催します。

本年度も11月3日(土)(幾徳祭初日)に、ホームカミングデーを開催します。ご家族、ご友人、先輩、後輩など、お誘いあわせのうえ、お越しください。同窓生の皆さまとの再会を教職員一同、お待ちしております。

